



KANSAI
UNIVERSITY

CTL

Kansai University Center for Teaching and Learning

Newsletter

関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

June 2014

vol. 15

「教える」を超えた「学ぶ」を探して

教育推進部 准教授 森 朋子

2014年4月に教育推進部に着任しました森朋子です。専門は教育学、社会学、心理学、認知科学などの学際分野で、さまざまな場面で生じる学びの構造・プロセスを考える学習研究です。そこでの知見を活かし、本学の教育改革にも携わってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

日本の教育システムでは、「教える」を通じて「学ぶ」経験が多いと言われています。つまり教師が学校で教え、宿題を出す、課題を出す、指示をする等を受けて、初めて子ども達は「学ぶ」に取り組みます。「教える」ことではじめて「学ぶ」のスイッチが入るといっても過言ではないでしょう。小中高とそのような学習経験を積み重ねてきた後に、大学に入学し、学生はいきなり主体的に学ぶことが期待されます。「学ぶ」から始まる学習経験が少ない学生は、誰からの指示を受けなくても自らの学びを積み上げていくことに、戸惑っている場合も少なくありません。

そもそも「学ぶ」は「教える」よりもっと広い概念であり、人は発達として学ぶ、生涯学習として学ぶ、学校外の家庭や企業・組織で学ぶなど、「教える」のスイッチがなくても模倣などからスタートして共同体の中で他者とかかわりながら学んでい

きます。さらに社会においては、「教える」機会が減りながらも、より深く、主体的な「学ぶ」が求められることを考えれば、小中高の学校での学習経験を転換し、「教える」を通じなくても主体的に「学ぶ」に取り組む人材を育成することは、学習のトランジションの観点からも大学教育の重要な役割になりました。

学習研究において、深い学習には、躊躇や葛藤、戸惑い、疑問や発見という複雑な心理状況を伴う思考のプロセスが必要と言われています。授業において、学生のそのような状況をどうやったら多く引き出せるのかといえば、一番に思いつくのは同レベルの他者、つまり学生同士の学びあいです。授業でも授業外でも、「えっ、それはなんで?」「どうしてそうなるの?」を気軽に引き出し、いろんな考え方を吟味できる学習環境をどのように作っていくかがとても重要です。学生が「教える」を通さない「学ぶ」をどれだけ大学生活で体験できるのか、また学生のこのような活動を「教える」でどのようにサポートしていくのか、主体性という意味を考えながら、個人としても大学教育改革としても、引き続き検討してまいります。

フォーラム・セミナー報告

スタディスキルゼミ、知のナビゲーターワークショップを開催しました

日時：3月14日(金) 10:00～12:00
場所：第2学舎2号館 C301教室

3月14日にスタディスキルゼミ、知のナビゲーターを担当される先生方を対象にワークショップを開催しました。このワークショップは、初めて当該授業を担当される教員と、これまで継続的に授業を担当していただいている教員を対象としています。

今回のワークショップでは、まず、①「他者の授業実践を共有し、自らの実践(今後実践しようと考えている教育プログラムを含む)を反省的にふりかえること」を目指しました。具体的には、教員同士が学習課題を紹介しあい、授業で取り扱うテーマの良さ・課題を見出し、課題に関しては改善点を検討し、その結果を授業において反映できることを目指しました。次に、②「大学で提供しているライティング

ラボやコモンズでの学習支援に関する情報に関して、必要に応じて学生に提供できるようになること」をねらいとしました。

①に関しては、グループワークの形態をとって、アイスブレイク、付箋を使った意見を出し合う方法、意見をまとめるシンキングツール、ワールドcaféなど、実際に授業で使っていた様々な教育手法を取り入れたワークを展開しました。

②に関しては、クリッカーを活用したミニレクチャー方式で、クイズを交えながら関西大学が提供している学習支援活動に関する紹介をしました。これらの支援を利用させたいとの声も上がっていました。

アンケートでは、他の先生の授業実践を聞

けて良かったとの意見をいただいております。研修以外にも、同じ授業科目を担当する教員同士で気軽に話し合いたい、という場合はぜひ教育開発支援センターをご利用ください。先生方のご来室心よりお待ちしております!!

(教育推進部 岩崎千晶)



グループワークの様子

今期もFD Caféを開店しました

日時：4月19日(土) 13:00～18:00
場所：第2学舎2号館 C301教室

4月19日、「FD Café」(新任教員研修会)を開催しました。新年度開始早々の気忙しい時期でありましたが、11名の参加を得ました。新任校での授業を数回経てからの方が、リアリティに満ちた対話ができるとの考えから、2011年度より開店時期を4月の下旬辺りにセッティングしています。

また昨年度より、CTLが推進する各種プロジェクトの内容をご理解いただき、それを日常



“Free Dialogue”を行う参加者

の教育実践に反映していただけるようにメニューに変更を加え、充実を図っています。

Café Timeはクリッカー(オーディエンスレスポンスシステム)を用いたアイスブレイクからはじまり、その後、ICTを利用した授業実践の報告や授業支援システムの利用方法の案内、TA・LAすなわち学生の教育力を活用する制度の説明、ライティング・ラボやコラボレーション・コモンズなど、CTLの新しい取組の紹介、あるいはグルーピング手法の体験など、さまざまなインフォメーションやコンテンツ、メソッドを提供できたと思います。

このFD Caféは次のようなコンセプトに導かれて営業しています。すなわち、Faculty[大学教員集団]が教育改善のために必要なことをDevelop[開発・伸長]するために、まずは教員間の意思の疎通・共有が求められるが、そのためには“Free Dialogue”が不可欠

であり、それは私たちにとってなくてはならぬ“Food & Drink”のようなものである、折角、口にする機会に恵まれるのなら、美味しく楽しく味わいたい、そんな場を必ず持ちたい、ということです。ここに自分たちの所属する組織がどんな姿であってほしいのか、私たちはそこにどれだけ関与できるのか、そのような“Future Design”を描き、その内容を伝え合う機会もそっと織り込みたいと願っています。

コンテンツやメソッドに関する情報等を提供することも大切ですが、学部や専門分野を越えた教員のつながりを大切に育んでいくこと、これがあってこそ豊かなFDを展開できると考えています。今後も、新しいメニューを開発していくつもりです。Café開店の折には、どうぞお気軽にお訪ねください。

(教育推進部 三浦真琴)

外部諸団体との連携

京都大学高等教育研究開発推進センターが中心となり関西地区の諸大学と連携してFD活動を促進している「関西地区FD連絡協議会」(本学は幹事校)が、新しいニュースレター(第11号)を発行しました。また、立命館大学教育開発推進機構が事務局をしている「全国私立大学FD連携フォーラム(略称JPFF)」(本学は地域(西日本)担当幹事校)がニュースレター(No.6)を発行しました。いずれもそれぞれのHPにアップされていますので、関西地区・全国でのFD活動の現状を把握するためにもぜひご覧ください。

また、津田塾大学との連携GP「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング/キャリア支援」が3年目の取り組みに入りました。それぞれ右記のページからご覧ください。(教育開発支援センター長 田中俊也)

- 関西地区FD連絡協議会
ニュースレター



- JPFFニュースレター



- 〈考え、表現し、発信する力〉を培う
ライティング/キャリア支援



TA・LA・授業支援SA向け研修を実施しました

教育開発支援センターでは、各学期開始前に、授業を支援するスタッフに対し研修を実施しています。今年度春学期開始前にも、以下の通り研修を実施しました。

(CTL事務局)

対象	実施日	主な内容
TA (Teaching Assistant)	3月27日(木)	・TA業務に関する説明 ・TA同士の意見交換
LA (Learning Assistant)	3月19日(水)	・LA業務の心がまえ ・グループワーク・ファシリテーション実習
授業支援SA (Student Assistant)	3月25日(火)	・SA業務の基礎知識 ・SA卒業生講演会

LAの活動報告： 国際学会でのインターンシップ

今年3月23日から28日までの6日間、LA4名が台湾台北市にあるAcademia Sinica(台湾国立総合研究所)で行われた国際学会で、運営スタッフとしてインターンシップを行ってきました。参加者は、池澤智也(政策創造学部3年)、横手奎祐(文学部2年)、松田昇子(政策創造学部1年)、鈴木香帆(文学部2年)の4名でした。

ISGC2014は、世界各国から300名以上の参加者がいる国際学会で、インターネット上のクラウドを利用した自然科学、教育、言語、細胞組織構造などの分野の発表が行われました。



インターンシップに参加したLAとCTL教員

私たちLAは、学会の二日前より学会運営の研修を受け、学会会場の設営や学会配布資料の準備等を手伝いました。学会中は現地学会スタッフと共に、受付業務、会場運営業務、座長サポート等の支援を行いました。参加者はもちろん現地の運営スタッフとも英語でコミュニケーションを取らなければならず、難しいと感じる点はありましたが、貴重な経験をする事ができ、私たちにとって大きな収穫となりました。またLA業務で日々心がけている自ら積極的に活動する姿勢・態度や貢献が評価され、閉会式で学会主催者のSimon C. Lin学会委員長より感謝状を頂くことができました。

このインターンシップでの経験を通して、国籍、言語、文化を超えた

Learning Assistant

LA活動報告

コミュニケーションをとることの大切さ、自ら積極的に活動する姿勢や態度、すなわち「考動力」の実践がグローバルレベルで認められることが分かりました。今後はこのスキルや経験をLA勤務の中で発揮し、他のLAや受講生と共有できたらと思います。

(LA・文学部2年 鈴木香帆)

LAが自主的に社会人と研修!

2月22日と5月10日に関大学生一LAを中心に「社会人とともに学ぼう」をスローガンに本学OB・OGと現役関大生が交渉学の合同ワークショップ研修を行いました。学生側の参加者は本学のみならず、関西圏の他大学、九州、関東圏の大学から40名ほど、社会人側は関大OBを中心に、第一線で活躍する社会人(弁護士、知財マン、エンジニア、営業マン、会社経営者、関西圏の社会人で勉強会を組織する知財PeCoのメンバー)が70名ほど集まりました。

学生と社会人の混合チームを20チーム構成し、交渉学演習を行いました。実際に起こりうるような状況設定を共有した後で、チームごとに問題点を話し合っ整理し、当事者の立場に立って最適案を合意形成しました。さらに、ロールプレイによる模擬交渉を実体験し、信頼関係を築くことがいかに大変なことを学びました。

(教育推進部 山本敏幸)



ワークショップの様子

教育開発支援センター 活用案内 CTL

岩崎千晶(編著)



教育開発支援センターでは、高等教育に関する様々な書籍をご用意致しております。市販の図書に加え、各大学の紀要や報告書等も充実しております。閲覧・貸出は自由ですので、お気軽にお越しください。ご推薦頂ける書籍等も随時受け付けております。教育開発支援センター(千里山キャンパス第2学舎1号館1階)までお気軽にお問い合わせください。

書籍紹介 (いずれも貸出可能です)

教育推進部教員の著書が発行されました。ご関心のある方は、ぜひご覧ください。教育開発支援センターにも配架しております。

『大学生の学びを育む学習環境のデザイン -新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニングへの挑戦-』

岩崎 千晶(編著) A5判、410頁 定価: 本体2,000円+税 (関西大学出版部)
本書は、アクティブ・ラーニングを主軸とした「大学生の能動的な学びを育むための学習環境のデザイン」を構築するための入門書で、理論編と実践編から構成されている。理論編「高等教育における学習環境を考える」は、アクティブ・ラーニングが導入された背景、理念、具体的な手法、学習支援、評価方法について検討している。実践編「学生の主体能動的な学びを促す学習環境のデザイン」は、「演習」「多人数講義」「ICTの活用」「社会連携」を視点に、関西大学全学部、教育推進部、国際部、会計専門職大学院、留学生別科の教員23名が授業実践を紹介している。

『学生と楽しむ大学教育 -大学の学びを本物にするFDを求めて』

清水 亮・橋本 勝(編) A5判、400頁 定価: 本体3,700円+税 (ナカニシヤ出版)
教育推進部三浦真琴教授・森朋子准教授が、執筆者となっております。

『ピアの響を繋ぎ、学習を楽しむ: 学習コミュニティ論からピアを考える』(森 朋子) 『三浦流の学生と楽しむ大学教育』(三浦 真琴)

モバイルPCカートの運用について

教育開発支援センターでは、平成26年度春学期からモバイルPCカートの貸し出しを開始しました。本学専任教員または非常勤講師であればごなたでも、授業内でご利用可能です。

■モバイルPCカートとは?

タブレットPC25台を収納したカートです。カートには、プリンタ・スキャナ複合機を付属しています。

■モバイルPCカート授業導入の利点

- 通常の教室にカートを選び入れることで、パソコン教室とはほぼ同様に授業ができます。
- KU-WiFiを利用し、ネット接続することができます。
- グループや個人が授業中にパソコンを使って、課題に取り組むことができます。
- 授業内に作成した学生の課題をその場でプリントアウト、またはプロジェクターに映し出すことができます。
- 授業中に資料のダウンロードすることで、ペーパーレス化が実現できます。



ご関心のある方、ご活用を希望される方は、CTL事務局までお問い合わせください。



センター長
田中俊也 (文学部 教授)

高等教育機関としての関西大学の全学的な教育の取り組みに実質的に責任を持つ部局として、CTLでは、大学の教育活動を教員・職員・学生・環境が一体化したものと捉えています。教員の教育力向上を目指すFD活動、職員のそれを示すSD活動、学生自身の持つ教育力のTA・LA・SAとしての活用、ICTやコモンズ空間に対する設計・提言等は、バラバラなスタンスではその成果が期待できません。CTLではスタッフ一丸となって関西大学の教育力向上にますます力強く取り組みます。



副センター長
三浦真琴 (教育推進部 教授)

最近は尋ねられることもなくなりましたが、学生も量りかねているようですが、本来の専門は教育社会学で、高等教育、就中、大学院の誕生と変容をテーマにしていました。今は大学の授業実践が省察ならびに研究の対象となっています。自身が実は構成主義に則っていることを三年ほど前に知り、それに気をよくして学生が大学生活を楽しむ契機となるアクティブ・ラーニングを実施するための研究と実践に拍車がかかっているところです。



山本敏幸 (教育推進部 教授)

学びの場を教室に限らず、広く地域社会に求めたいです。プロブレム・ベースト・ラーニング(PBL)を通して地域社会の人達と学生が協働し、学びをより深くする教育環境の構築を日々考えています。様々なステークホルダーがそれぞれに持っている情報、価値観、気持ちや思いを話し合いを通して共有・共感することを実践しています。そのことにより、納得のいく形で問題・課題を定義し、最適な解決案を議論し、次なるステップに向けて行動判断や段取りの合意形成ができるように協働しています。教育を見直し、活性化する、すなわち、「考動力」を涵養するには、地域連携がひとつの重要な鍵となると考えています。



森 朋子 (教育推進部 准教授)

専門とする学習研究は、20世紀後半に起きた新しい学問です。認知科学や脳科学の発展に伴い、人がどのように学ぶのか、その学びのメカニズムとプロセスを解明し、その知見を教育方法に活用します。その中では、人は人と関わり、躊躇や混沌、不安を乗り越えながら影響を与え合うことで、より学びが促進することが明らかになっています。学生の学びも、教職員の学びも、このような状況をいかに多くデザインし、隠れた能力を引き出し、サポートするかが私の課題だと思っています。どうぞよろしくご厚意申し上げます。



岩崎千晶 (教育推進部 助教)

こんにちは!私は教育工学を専門とし、高等教育を対象に「学びを育む学習環境のデザイン」について研究しています。CTLでは、TAやLAの活動を支援する学生力の活用プロジェクト、コモンズをはじめとした学習環境のデザインや学習支援を検討する学習環境プロジェクトにて、プロジェクト長を担っています。またライティングプロジェクトでは、学生の書く力を育むための教育プログラム、ライティングラボ運営による学習支援を検討しています。学内で見かけたら気軽にお声掛けください!



萩原恒夫 (授業支援グループ長)

「授業支援ステーション」では、職員と授業支援SAが授業運営に関するご相談やお問い合わせに対応しております。時間や技術を要するAV機器の設置および利用補助、カードリーダーによる出欠調査、ミニツツペーパー(コメント用紙)の配付・回収・整理、レポートの回収・整理など、各授業支援ステーションで承っております。今後もさらに先生や学生へのサポートを充実させていきますので、ぜひ「授業支援ステーション」をご活用ください。

From
CTL事務局

この4月からCTLの業務に携わるようになって、私がまず興味をもったのが、学習・教育効果を高めるために、学生が学生の学びをサポートする「TA(ティーチングアシスタント)」・「LA(ラーニングアシスタント)」制度、私が大学生の頃には、想像も出来なかった画期的な制度である。TAやLAを担当する学生は、実際の授業でデビューする前に、研修を受けているのであるが、果たしてサポートする学生の実力やいかに…

今回初めてLA研修(グループワーク・ファシリテーション実習)を見学し、彼らの実力を目の当たりにした。研修は教職員が進めていくのかと思いきや、経験の長いベテランLAが司会進行。運営もすべてLA自身で行っていた。ユーモアを交えながらの進行で、会場は一気に和やかな雰囲気になり、緊張でガチガチになっていた新規LAもいつの間にか笑顔に。研修では、アクティブ・ラーニングに関する基本用語の解説を交えながら、実際の授業でサポートすることになるで

あろう、その手法を取り入れたグループワークを実施。ホワイトボードシートや付箋といった小道具もうまく利用しつつ、ベテランLAが中心となり、言葉少ない新規LAからも、リラックスさせながら、うまく意見を引き出していく。絶妙な進行、活発な意見が飛び交うグループワークに、圧倒された。おそらくLAとしての経験の積み重ねが、彼らをここまで成長させたのであろう。この制度、教員や受講生のみならず、その相乗効果は、私の想像をはるかに超えていた。関大生の底力を見た。(万)



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2014年6月30日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター